

令和2年度 大学生の力を活用した集落復興支援事業
(実証実験) 業務実施報告書

会津若松市大戸地区の地域活性化について

公立大学法人 会津大学短期大学部 00T0 プロジェクト

2021年(令和3)年2月

目次

1. はじめに
2. 大戸地区の概要
3. 仮説（00T0 プロジェクトが提案する活性化のシナリオ）
4. 実施体制
5. 実証事業の概要（活動スケジュール）
6. 実証事業の結果（1）竹林保全と竹活用プロジェクト
 - ①竹の伐採，現地調査
 - ②竹ランタン制作と駅のイルミネーション
 - ③竹の秘密基地づくり（インスタレーション）
 - ④炭焼き窯の再生
7. 実証事業の結果（2）鳥獣対策
 - ①研修への参加
 - ②はじめての狩猟セミナーin 会津大学の開催
8. 得られた知見
9. 活性化プランの提案
10. おわりに

1. はじめに

私たちは会津大学短期大学部 00T0 プロジェクトは、2019年6月に経営情報コースに所属する学生を中心に立ち上がり、2年目になる2020年度はプロダクトデザインや造形教育を専攻する学生、さらには福島県立葵高等学校の生徒の幅広い参加も得て、実証事業を実施した。また実証事業を行うにあたっては、地域パートナーである大戸まちづくり協議会や大戸公民館を始め、会津若松市地域づくり課、会津若松第3地域包括支援センター、福島県自然保護課の方々に多くのご協力を頂いた。

今年度は新型コロナウイルス感染症予防のために、大規模なイベントや食に関する取組みは開催できなかったものの、竹を活用したランタンのイルミネーションやストラップづくりワークショップでは、大戸地区の子育て世代から高齢者まで様々な住民の方と触れ合うことができた。さらに、「はじめての狩猟セミナーin 会津大学」では、近年深刻さを増している鳥獣被害とその対策について大学生や若者の意識向上につながる機会になった。

2. 大戸地区の概要

大戸地区は、会津若松市の南部、下郷町との境に位置しており（下図の赤い点で示す）、中心市街地まで車で約30分かかる。芦ノ牧温泉や大川ダムが立地しているものの、近年、高齢化と人口減少が加速している。土地面積、人口、世帯数、高齢化率は以下の通りである。

- 土地面積 : 59,644 km²
- 人口 (H31/4) : 1,480 人 (うち20歳未満 : 130 人)
- 世帯数 (R2/1) : 681 世帯
- 高齢化率 (H31/4) : 大戸地区 : 47.8% (会津若松市全体 : 30.2%)

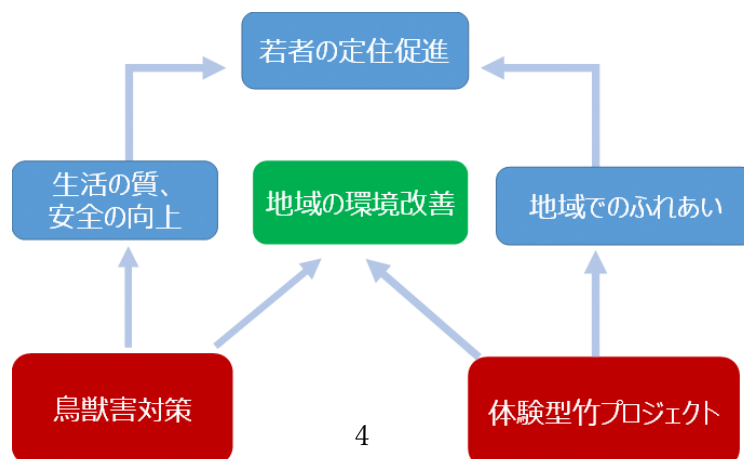


3. 仮説（00T0プロジェクトが提案する活性化のシナリオ）

大戸地区には、芦ノ牧温泉街があり、稲作や果樹栽培など豊かな自然資源に恵まれている。一方、2019年度のフィールド調査とアンケート調査により、住民の関心が最も高いテーマは若者の定住と鳥獣害対策であること、一人暮らしが増えていて近所での会話や子供たちとのふれあいを望んでいること、防犯や防災に女性の視点を取り入れることが安全・安心なまちづくりに必要だと考えていること、若者が長く住み続けられ愛着がわくような環境に変えていくために将来を担う若者が地域の将来を真剣に考える場が必要であることが判明した。

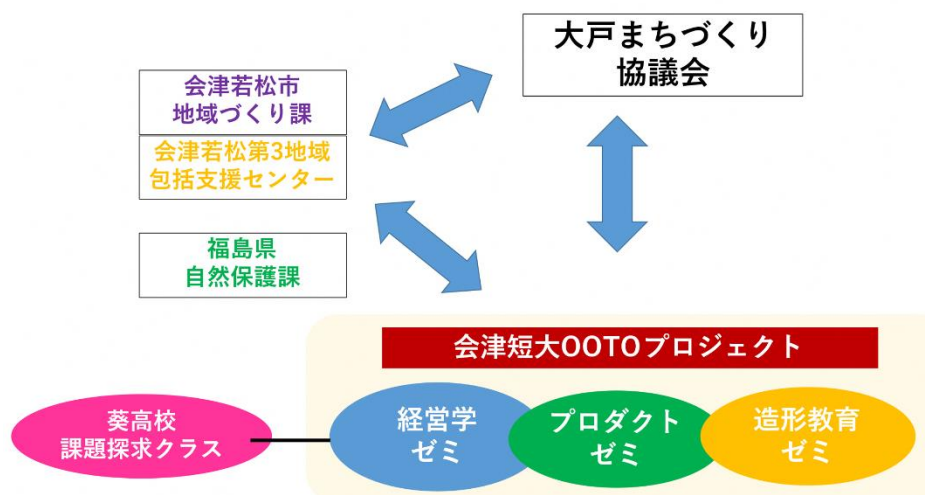


そこで私たち会津大学短期大学部 00T0 プロジェクトは、以下のような活性化のシナリオを提案する。一つ目は、鳥獣対策に取り組むことで、生活の質や安全の向上をはかる。二つ目は一つ目とも関連するが、里山保全とくに竹林の保全活動を通じて、現在は負の財産と考えられている「竹」を地域資源として活用し、体験型の竹プロジェクトを通じて地域でのふれあいの向上をはかる。これら2つの取組みにより地域の環境改善を推進して、最終的には若者に魅力的な地域をつくり、移住や定住の促進を目指したい。



4. 実施体制

次に実施体制である。冒頭で述べた通り、2年目になる2020年度は創設時のメンバーである経営学ゼミに加えて、プロダクトデザインや造形教育を専攻する学生、さらには福島県立葵高等学校の生徒の幅広い参加を得ることができた。特に地元出身の高校生2名が参加してくれたことに、このプロジェクトの大きな意義を感じている。また地域でも、まちづくり協議会が新たに設立され、パートナーとして取り組んで頂いた。



5. 実証事業の概要（活動スケジュール）

2020年度行った活動は以下のとおりである。

8月 竹の伐採活動

短大の施設で竹ランタンを制作

芦ノ牧温泉駅夏祭りで竹ランタンのイルミネーションを行う

会津地方振興局・県野生生物共生センター主催「鳥獣対策研修会」に参加

9月 モデル地区である会津若松市湊地区でフィールド調査

市／地域包括支援センター打合せ

葵ゼミとの協働開始

10月 竹の伐採活動

オリックス社と ICT 活用について意見交換を行う

11月 使われていない炭焼き窯の再生

竹の秘密基地づくり（インスタレーション）

県自然保護課主催「狩猟はじめてセミナー」（郡山市）に参加する
市／地域包括支援センター打合せ

12月 竹炭づくり

竹のストラップづくりワークショップ

「鳥獣害対策セミナーin 会津大学」を県自然保護課と共催する
会津若松市のコミュニティ FM で活動報告

以上をまとめたものが、以下の表である。

2020年	①竹活用プロジェクト	②鳥獣対策	その他
8月	<ul style="list-style-type: none">・竹の伐採活動・短大の施設で竹ランタンを制作・芦ノ牧温泉駅夏祭りで竹ランタンのイルミネーションを行う	<ul style="list-style-type: none">・会津地方振興局・県野生生物共生センター主催「鳥獣対策研修会」に参加	
9月		<ul style="list-style-type: none">・モデル地区である会津若松市湊地区でフィールド調査を行う	<ul style="list-style-type: none">・市／地域包括支援センター打合せ・葵ゼミとの協働開始（9月～2月）
10月	<ul style="list-style-type: none">・竹の伐採活動	<ul style="list-style-type: none">・オリックス社とICT活用について意見交換を行う	
11月	<ul style="list-style-type: none">・使われていない炭焼き窯の再生・竹の秘密基地づくり（インスタレーション）	<ul style="list-style-type: none">・県自然保護課主催「狩猟はじめてセミナー」（郡山市）に参加する	<ul style="list-style-type: none">・市／地域包括支援センター打合せ
12月	<ul style="list-style-type: none">・竹炭づくり・竹のストラップづくりワークショップ	<ul style="list-style-type: none">・「鳥獣害対策セミナーin 会津大学」を県自然保護課と共催する	<ul style="list-style-type: none">・会津若松市のコミュニティFMで活動報告

6. 実証事業の結果 (1) 竹林保全と竹活用プロジェクト

①竹の伐採,現地調査

2020年8月6日(木), 大戸地区会津児童園の裏山で竹の伐採を行った。また竹炭を作るための炭焼き窯の現況調査を行った。その結果, 炭焼き窯は再生可能なことが判明した。



②竹ランタン制作と駅のイルミネーション

伐採した竹を使って, 大戸地区と OT00 プロジェクトの PR をするために, 竹ランタンを制作した。加工は8月11日に会津大学短期大学部の木工室を使用して, プロダクトデザインがご専門の沈得正先生(産業情報学科)と造形教育がご専門の葉山亮三先生(幼児教育学科)にご指導頂き, 約100個制作した。そして8月15日に, 会津鉄道芦ノ牧温泉駅で開催された「大戸町夏祭り」にて, 竹ランタンを駅ホームに設置してイルミネーション装飾を行った。地元の方々が行っている出店とのコラボレーションがうまくいき, 子供たちから高齢者まで楽しく参加頂いた。



③竹の秘密基地づくり（インスタレーション）

2020年11月28日、子どもを対象に竹の伐採、竹割り体験、そして竹による秘密基地づくりを幼児教育学科の学生が中心に行った。この事業は造形教育がご専門で会津短大幼児教育学科の葉山亮三先生にご指導頂いた。参加した子どもたちは竹の加工を通じて、一つの作品に仕上げた達成感があったようだ。また、竹割機をつかった竹割りに夢中になるなど普段なかなかできない体験を子どもたちに提供できて、大変好評であった。



④竹ストラップづくりワークショップ

2020年12月12日、大戸町公民館にて竹ストラップづくりの体験ワークショップをプロダクトデザインを学ぶ学生4名が中心に行った。参加した子どもは6歳から12歳までの大戸在住の7名で、その他、大戸まちづくり協議会1名、第3地域包括支援センター3名、葵高校生2名が参加した。アンケート結果から、参加した全員が「よかった」「竹に関して興味がわいた」といった感想が得られた。また「竹の加工は大変だったが楽しかった」「竹の質感がわかった」といった記述が多数みられ、竹への認識が高まったと思われる。改善点としては新型コロナウイルス感染症予防のため、参加者を少人数に制限し、時間も1時間以内で、ひとり1個のみ制作することにしたが、もう少し時間を長く設定すれば制作できるストラップの数を増やすことができ、よりモノづくりワークショップを楽しめるのではないかと今後に期待する。

ものづくり
ワークショップ
大戸町の竹で
自分だけの
ストラップを
作ろう！！

日程 2020年12月12日(土)
①10:00-11:00
②11:00-12:00
※完全予約制

定員 20名 参加費 無料
※定員次第申込みを締め切らせていただきます

竹の加工が体験できます！

①切る ②削る ③磨く レーザーで焼き付けます

④焼き付け模様を鑑賞

主催：大戸公民館
（福島県会津若松市大戸町上田町7-9）
対象：市内在学の小中学生（親子での参加が望ましいです） 申込みフォームでの申込みも可能です
申込み・お問い合わせ先：会津大学短期大学部地域活性化センター 電話：0246-2-2377034 Eメール：chikaku@cupltsu.ac.jp

主催：会津大学短期大学部 共催：大戸まちづくり協議会

⑤炭焼き窯の再生

2020年11月6日に炭焼き窯を清掃し、12月5日に炭焼きと竹チャーハンづくりを大戸小学校の裏山で行った。OT00プロジェクトのメンバーに加えて、大戸まちづくり協議会、会津若松市地域づくり課、第3地域包括支援センター、葵高校課題探求型クラスが参加し、「竹炭づくりの大変さが分かった」、「実際の体験を通して竹炭への理解を深めることができた」との声があった。本学産業情報学科デザイン情報コースの横尾誠先生にもご指導頂いた。



6. 実証事業の結果 (2) 鳥獣対策

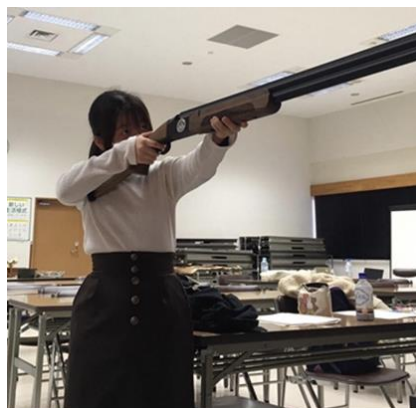
① 研修への参加

- ・「会津地域の被害と対策状況について」

2020年8月25日、県会津合同庁舎にて開催された会津地方振興局主催のGISオンライン活用と住民とのリスクコミュニケーションに関する研修会にオブザーバーとして参加させて頂いた。地域の現状や情報共有のためのコミュニティ強化の重要性について学ぶことができた。

- ・「はじめての狩猟セミナー」

続いて11月14日に、福島県自然保護課が主催する「はじめての狩猟セミナー」に参加した。これは郡山市労働福祉会館にて行われた。「座学講習」では法制度と鳥獣の捕獲方法について学んだ。演習ではくくりわなや箱わなを使用した「わな設置講習」とシュミレーターによる模擬射撃ができる「射撃講習」を行った。初心者にも分かりやすく親しみやすい内容であった。実際に使う道具や動物の毛皮を見たり触れたり普段体験することができないことも体験することができた。



② はじめての狩猟セミナーin 会津大学の開催

上記で学習した内容を、地域と学生に広く伝え賛同者を増やすことを目的に、福島県自然保護課に依頼して会津大学での研修会を企画し、12月19日に開催した。これには、県自然保護課の他に会津地方振興局、会津若松市地域づくり課、大戸まちづくり協議会、東北野生動物保護管理センター、福島県野生動物調査専門官ら多くの方々にご協力頂いた。会津大学生、会津短大生、葵高校生、大戸地区住民を含む30名が参加した。

内容は、11月14日に行われた「はじめて狩猟セミナー」をベースに、野生動物の見方や考え方、会津地方における鳥獣害の現状についても学べるオリジナルメニューで実施した、参加者からは鳥獣被害に対する関心が高まったと大変好評だった。



くくりわなの体験

8. 得られた知見

実証事業から得られた知見として以下6つを挙げる。

- ・ どの事業においても、住民の関心を高めて参加を広げることが重要である。
→参加して欲しいターゲットに企画から参加してもらいより魅力的な事業にする。
- ・ 人と人をつなぐコミュニケーションの活性化が必要不可欠である。
→対面での説明やチラシによる広報に加えて、ネットを使ったPRも効果的である。
- ・ 地元出身の高校生2名が積極的に地域づくりに参加するようになった。
→地元の高校生の居場所や役割をもっと地域で作る必要がある。
- ・ 竹を使った子ども向けのワークショップを通じて、竹林保全について子育て（親）世代の関心も高まっている。
→子育て世代は一般的に忙しいが、きちんと説明すれば地域の環境や鳥獣被害に対しても高い関心を示してくれ、協力的である。
- ・ 短大生も活動を通して、地域の課題や魅力を知ることができた。
→継続的に地域に係ることが大事である。卒業後も係れる仕組みを検討する。
- ・ 地域活動の核として大戸まちづくり協議会（地域運営組織）に期待したい。
→パンフレットやネット等でもっと活動を周知することが必要だろう。

9. 活性化プランの提案

(1) 竹炭の活用

竹炭そのものの活用だけではなく、竹炭を肥料として野菜や花を栽培し、オリジナルブランド野菜（花）として、温泉街や駅など地元の施設等で販売する。そしてその収益金を竹林の保全活動や竹炭づくりにあて、地域循環型の経済をつくる。

またキャンプやバーベキューなどで、竹炭と地元の食材をセット販売する。

(2) 竹食器や漆器の製作

伐採した竹で、皿や箸といった食器を製作するとともに、大戸の漆を使って加工することで、会津らしさを生み出す。



(3) 「狩りガール」に向けた研修の継続

鳥獣対策への住民の理解と関心を高めるために、特に若い世代を対象にした研修を継続する。

10. おわりに

私たちは今回、竹活用と鳥獣対策の視点から実証事業を行ったが、コロナ禍にも関わらず、子どもから高齢の方まで、多くの人に活動に参加して頂いた。またその方々がとても元気に楽しんでいる光景がとても印象的だった。そのような方々がますます輝き、さらに大戸地区がさらに発展をしていけるよう、今後も貢献していきたい。

最後に本活動をするにあたり、惜しみない協力をして頂きました大戸まちづくり協議会、会津若松市地域づくり課、第3地域包括支援センター、葵高校課題探求型クラスなど多くの支援者の皆様に深く感謝申し上げます。

2年代表 大久保柚那

1年代表 蓮沼倫子

・会津大学短期大学部 OT00 プロジェクト

大久保柚那, 篠木友愛, 蓮沼倫子, 鈴木優希菜, 石井茜, 酒井結衣, 佐藤 暖,
渡部舞香, 本田永遠

・竹ストラップワークショップ 戸田陽, 間佳奈, 藤原瑚乃香, 佐々木麗海

・竹の秘密基地づくり 佐々木萌, 安藤真理愛, 菊地みのり, 佐藤なりみ,
関本千尋, 村岡さやか

・福島県立葵高等学校 山内一輝, 満山志帆, 宇南山雅乙, 井上流那

編集 蓮沼倫子, 鈴木優希菜, 石井茜

(会津大学短期大学部 1年)

監修 青木孝弘 (同産業情報学科准教授)

沈 得正 (同講師)

葉山亮三 (同幼児教育学科講師)